# “Future Dryland” －ステークホルダーとの協働による学術-社会をつなげる超学際研究－

国際乾燥地研究教育機構

## Future Dryland 1(To The Future Dryland)

### 乾燥地の研究課題

- 世界の中の乾燥地の役割の解明。
- 地球温暖化に伴う極端現象（熱波、干ばつ、豪雨など）といった自然現象と人間活動（過耕作、過放牧など）による乾燥地環境変化（災害発生メカニズム）の理解とその対策の立案。
- 乾燥地における、人間の福利を充実させるための持続可能な開発（持続可能な土地管理(SLM)アプローチ、参加型育種などの推進）
- 持続可能な未来に向けての転換のための知識集積。

### 乾燥地と日本・鳥取を繋ぐ研究課題

- 乾燥地と日本、鳥取との関係解明（乾燥地への貢献と乾燥地からの恩恵）。
- 北東アジア地域(環日本海地域）との交流推進。
- 乾燥地と日本の過疎地域(鳥取)の共通課題のリストアップ（例. 都市の一極集中）。
- 乾燥地におけるビジネスチャンス（例. 食糧生産、鉱山開発）。鳥取の企業の乾燥地への進出。
- 乾燥地起源の黄砂・PM2.5の健康影響・生態系影響の調査及びその対策の立案。
- 鳥取砂丘がつなぐ鳥取と世界の乾燥地（鳥取砂丘が育んだ人と自然の関わりの世界展開、先進的な砂丘観光、開発事例の導入等）

### 超学際研究の取り組み

- 国連砂漠化対処条約/科学技術委員会(UNCCD/CST）、IPBESなどの国際機関会合・ワークショップなどへの参加を通じた、研究成果の発信及びステークホルダーのニーズの理解
- 人間の福利向上に向けた、人文社会系研究による様々なステークホルダーのニーズの掘り起こし
- 現地政府機関、地方行政府との意見交換
- JICA、JETRO、NGO・NPOなどとのワークショップ開催

### 超学際研究の取り組み

- 鳥取県・市町村とのワークショップ開催
- 商工会議所、JA、JETRO、NGO・NPOなどとのワークショップ開催
- シンポジウム、市民向け講演会などの開催

《世界》

《日本・鳥取》

研究課題

研究成果の普及

ニーズの理解

研究成果の普及

ニーズの理解

**学際研究**
(Inter-disciplinarity)

- 黄砂・環境修復PJ
- 海外連携機関
- 砂丘地保全・活用PJ
- 農業・農村開発PJ
- 過疎地域・産業振興PJ
- 人間社会PJ

**超学際研究：ステークホルダーとの協働**
(Trans-disciplinarity)
学術-社会を繋げる布石

### 多様なステークホルダー

- UNCCDなどの国際機関
- 乾燥地の住民
- 乾燥地を含む海外政府機関
- 乾燥地の地方自治体
- NGO・NPO
- 企業（経済界）

### 多様なステークホルダー

- 日本国民・鳥取県民
- 日本国政府
- 地方自治体(鳥取)
- 地方自治体(他の過疎地)
- 地方自治体（都市）
- NGO・NPO
- 企業（経済界）

## Future Dryland 2

研究成果の普及

研究成果の普及

**超学際研究の発展**
ステークホルダーとの協働企画（Co-Design）
・協働生産(Co-Production)
研究計画段階から、様々なステークホルダー(国内外政府機関、地方自治体、産業界、市民、NGOなど)を巻き込み、研究活動の設計(Co-design)と研究知見の創出(Co-production)を行う。

**学際研究の発展**
ステークホルダーのニーズを捉えた研究